

令和6年度学校自己評価システムシート (県立所沢北高等学校)

目指す学校像	たくましい知性としなやかな感性を備え、高い倫理観とグローバルな視野を持って、地域や社会の持続的発展に貢献しようという高い志を有するリーダーを育成する。
--------	---

重点目標	1 確かな学力と自立する力の育成に向け、ICTを効果的に活用した不断の学習・授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組む態度や探究的に学ぶ習慣を育み、生徒一人一人の進路希望実現を支援する。 2 豊かな心と健やかな体の育成に向け、自律的に生活する力や他者と尊敬し合える関係を築く力を身に付けさせ、社会を支える資質・能力の基礎を育む。 3 社会に開かれた教育課程の実現に向け、家庭・地域との協働、国際交流や大学等との連携を充実させる。 4 SSH指定校として、科学的で探究的な学習活動を推進し、地域の理数教育を牽引する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 生徒一人一人の確かな学力の育成と進路希望の実現に向け、教員、生徒、保護者が協力して取り組んでいる。昨年度は、京都大学、北海道大学、東北大学、東京工業大学等の難関国立大学に加え、新潟大学及び群馬大学の医学部医学科、富山大学及び徳島大学の薬学部等への合格者を輩出した。 【課題】 生徒の平日及び休日の自学自習時間の増加が喫緊の課題である。また、生徒一人一台 iPad の利活用や教科等横断・融合型授業の実践を通じて、教員同士が互いに学び合い、高め合う学校文化を創ることが求められる。	①生徒一人一人の在り方生き方と関連付けた「探究的な学び」を実現する。 ②生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ③自律(自立)的学習者の育成に向け、生徒のセルフマネジメント能力等を育成する。 ④互いに学び合い、高め合う教員集団、学校文化を形成する。	①「探究的な学習活動」と進路希望の実現をつなげていく。(通年) ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的な活用や学習評価の見直し・改善を行う。(通年) ③各分掌・学年による意識づけや、各教科等において課題設定を工夫するとともに、部活動等においても啓蒙を行う。(通年) ④一人一台 iPad を利活用した授業や教科等横断・融合型授業を互いに見学し、フィードバックし合う機会を創出する。(通年)	①自らの在り方生き方や進路希望と「探究的な学習」を関連付けた生徒の割合7割以上。(生徒アンケート) ②「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現した生徒の割合9割以上。(生徒アンケート) ③平日学年+1H、休日学年+3Hの自学自習時間を確保できた生徒の割合5割以上。(生徒アンケート) ④互見授業の頻度やフィードバックの回数等(前年度比)	①自らの在り方生き方や進路希望と「探究的な学習」を関連付けた生徒の割合は、54.5%であった。 ②「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現した生徒の割合は、81%であった。 ③平日学年+1Hの自学自習時間を確保できた生徒の割合は、24.6%、休日学年+3Hの自学自習時間を確保できた生徒の割合は、32.4%であった。 ④研究授業や教科等横断・融合型授業に加え、先進校視察による授業見学により、前年度より15件増加した。	B A B A	●課題 ・生徒が自らの在り方生き方と「探究的な学習」を関連付けた割合は前年度から+4.7%と向上したが、目標値には未到達である。 ・平日学年+1H、休日学年+3Hの自学自習時間を確保できる生徒の割合を増加させる。 ◎改善策 ・探究活動に係る特定の科目だけでなく、教育活動全体で在り方生き方を考えさせる機会を創出する。 ・各教科・学年・分掌等の連携・協働による自学自習時間の増加に向けた取組を推進する。
2	【現状】 基本的生活習慣の確立や学校行事等への主体的な参加に向けて、生徒指導部、保健環境部、各学年、各部活動等が連携・協力し、生徒支援を行っている。 【課題】 学校生活の様々な場面で、生徒にリーダーシップを発揮させる機会をより多く創出することが課題である。また、生徒一人一人の状況に応じた木目細やかな支援を行う必要がある。	①高い規範意識を持って、自主的・自律的に学校生活を営む資質・能力を育成する。 ②自他を尊重する社会性を身に付け、リーダーシップを発揮できる資質・能力を育成する。 ③生徒一人一人の多様な状況に対応できる組織的な支援体制を構築する。	①安心・安全な学校生活や充実した行事を運営できるよう指導・支援する。(通年) ②HR、委員会、学校行事や部活動等を通じて、生徒がリーダーシップを発揮する機会を創出する。(通年) ③SC・SSW、家庭や外部機関と連携し、多様な生徒の状況に丁寧に対応する。(通年)	①事故・苦情・指導対象者の減少。(前年度比) ①学校行事等における充実度等9割以上。(生徒アンケート) ②リーダーシップを発揮する機会を得た生徒7割以上。(生徒アンケート) ③SC・SSW、家庭や外部機関と連携の状況。	①自転車事故6件(前年度11件)。苦情7件(前年度9件)、指導件数8件(前年度6件)であった。 ①学校行事等における充実度等は、91.3%であった。 ②リーダーシップを発揮する機会を得た生徒の割合は、57.7%であった。 ③SC等の教育相談を利用した生徒・保護者等の数は、50件を超えた。	A A A	●課題 ・生徒が高い規範意識を持って行動し、登下校も含めた学校生活を安心・安全に送れるよう環境を整える。 ・リーダーシップを発揮する割合は、前年度から+7.9%と向上したが、目標値には未到達である。 ・生徒一人一人の状況に対応した教育支援体制を構築する。 ◎改善策 ・分掌・学年・委員会等で情報共有を密にし、連携・協働し対応する。
3	【現状】 本校の取組について校内外から複数回のフィードバックを得て、教育活動の改善に努めている。また、国際交流にも意欲的に取り組んでいる。 【課題】 国際交流やPTA・後援会との連携・協働を強化する。また、学校説明会等の計画・実施方法を見直し、新たな生徒募集体制を構築することが課題である。	①校内外からのフィードバックを生かした学校経営を行う。 ②国際交流の充実を図る。 ③生徒募集体制の見直し・改善を行う。 ④各種広報媒体を活用し、本校の教育活動を校内外に広く発信する。	①様々なフィードバックを精査し、教育活動の改善に生かす。(通年) ②海外研修や留学生の受け入れ、外部機関との連携を図る。(通年) ③教務部を司令塔とした全教職員による生徒募集体制を構築する。(4～2月) ④HPをはじめ、PTA広報誌や学習塾の媒体等を利活用する。(通年)	①フィードバックを生かした教育活動の改善の件数。(前年度比) ②海外との交流、外部機関との連携の状況。(前年度比) ③学校説明会、学校見学会等の実施状況及び入試倍率の向上。(前年度比) ④HPの更新状況、公式インスタグラムの開設及び更新状況、校内外の媒体利用状況。(前年度比)	①学校全体での業務改善件数72件(前年度40件) ②従来行っているものに加え、デンマーク海外研修(3月)や企業との連携に向けて準備を行っている。 ③学校説明会4回、ミニ学校説明会4回を実施。12月15日現在、普通科1.32(前年度1.14)理数科1.88(前年度1.33) ④HPにSSHのページを作成、インスタグラム開設、フォロワー数1950を超えた(2/1現在)。	A A A A	●課題 ・今年度対応できなかったフィードバックについては、次年度へ引き継いでいく。 ・生徒募集・広報活動の見直し・改善を行う。 ◎改善策 ・今年度行った新たな取組みの成果を振り返るとともに、次年度の取組をブラッシュアップする。
4	【現状】 理数科設置から9年が経ち、今年度より念願のSSH指定校の認定を受けた。今後は、海外研修を含めた事業計画等に従って、科学的で探究的な学習活動を推進していく予定である。 【課題】 SSH事業に係る書類提出、経費執行、事業計画の遂行等を滞りなく行い、SSH初年度を完了する。	①教科等横断・融合型授業を開発し、実践の成果物等を校外へのアウトリーチを行う。 ②1学年の探究的な学習活動に係る科目の計画・実施・評価等を開発する。 ③2・3学年の課題研究の質的向上を図る。 ④大学・研究機関等、所沢市等との連携・協働を行う。 ⑤世界的な課題解決を志す資質・能力育成のためのプログラム開発を行う。	①「SSコラボレーション」の計画・実施・評価を開発し、校外へ発信する。(通年) ②「理数探究基礎」「SS探究I」の授業内容・評価の見直し・改善を行う。(通年) ③「理数探究」における課題研究の指導と評価の改善を行い、SSH生徒研究発表会に発表者として参加する。(通年) ④関係機関との連携・協働を密に行い、新規事業等を企画する。 ⑤カーボンニュートラルに係る海外研修を計画・実施する。(10～3月)	①「SSコラボレーション」の実施及び評価方法の開発状況。 ②「理数探究基礎」「SS探究I」の実施状況。(前年度比) ③課題研究の質的向上の状況、SSH生徒研究発表会への参加状況。 ④関係機関との連携・協働の状況、新規事業等の実施状況。(前年度比) ⑤カーボンニュートラルに係る海外研修の実施状況	①年間指導計画に沿って実施し、評価方法を確立した。 ②「理数探究基礎」は内容を改善し、「SS探究I」は総括的評価(評定)を行った。 ③課題研究の評価を組織的・計画的に実施した。SSH生徒研究発表会等の校外発表の機会が増えた。 ④東京大、慶應大、早稲田大、所沢市等との連携・協働の機会が増えた。 ⑤SSHデンマーク海外派遣研修を実施(3月)。	A A A A	●課題 ・課題研究や探究的な学習活動に係る科目の評価計画・方法を見直し、評価の信頼性と妥当性を向上させる。 ・SSH海外研修に参加できる生徒の人数を増やす。 ◎改善策 ・「SSコラボレーション」「SS探究I」「SS探究II」「SS課題研究」「理数探究」の実施計画及び評価方法の見直し・改善を行う。 ・SSH海外研修の行先・研修内容等の見直し・改善を行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和7年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○探究的な学習活動が生徒の進路決定や在り方生き方に結び付きつつあるのは、先生方の御指導の賜物だと思う。 ○自学自習時間を確保できない生徒の現状を踏まえた効果的な指導を行ってほしい。 ○ICTの利活用が進めば進むほど、文字を丁寧に書くことの大切さが際立ってくるように感じている。	
○近隣地域に住んでいて期待することは、所北生は常に小中学生の模範となってもらいたい。これまでもそうであったし、これからもそうあってほしい。 ○リーダーを輩出する学校として、生徒がリーダーシップを発揮する機会が増えていることは、非常に望ましい。	
○学校が様々な媒体を利用して、広報活動に努めている様子が伺えた。これからも開かれた学校づくりを推進してほしい。 ○地域に根差した進学校として、行きたい高校、目指したい高校で在り続けてほしい。	
○SSHに認定されたことで、より注目される学校になったと思う。運営は大変だと思うが、是非継続して行ってほしい。 ○多くの大学や所沢市などの行政との連携・協働に加え、企業とも連携・協働が行われると、より社会実装に資する探究的な学習活動となるのではないかな。	

